

企業での日常的な安全衛生活動

安全衛生活動

「労働安全衛生法」などの法令に基づく活動

- 【目的】
- 労働災害および事故の防止
 - 環境汚染の防止
 - 労働者の安全と健康の確保
 - 快適な職場環境の形成

「安全衛生活動」 (労安法に則った総合的な活動)

「環境安全活動」 (安全活動に環境対策を加えた活動)

「ゼロ災活動」 (特にゼロ災害を主目標とする活動)

「RC活動」 (レスポンシブル・ケア活動*)

* 化学物質を扱う企業が化学製品の開発から製造、使用、廃棄に至る全ての過程において、自主的に環境・安全・健康を確保し、社会からの信頼性向上のためのコミュニケーションを行う活動のこと

安全衛生活動の体制

全員参加

企業のトップが率先し、組織末端までの全員が高い安全意識を持って活動に参加することが最も重要

- 大部分が優れていても、ただ1つの弱点が原因で事故は起こる
- 「安全第一」の思想を徹底するには、トップの強い意志が重要

組織（職場）単位での活動

各課単位で自主的に活動し、それを階層的に集約させることにより全社的な活動を管理

安全衛生活動と仕事の効率改善運動などをリンクさせて実施

- 職場単位で毎月1回、安全衛生会合を開催
- さらに部単位や全社単位の「安全衛生委員会」を開催
- 「安全」を全社のコミュニケーションの重要なルートとして活用

危険予知訓練

危険予知訓練（KY（KYK、KYT））

自分の行う作業に潜む危険性を事前に予知する訓練を行う

- 初めての作業であれば、グループ討議などを行い、入念に危険予知
- 日常的な作業であれば、いつもと違うところがないかをチェック
- 基本的なフォーマットが決まっていて、それに従って行う

4ラウンド法KYK

第1 R（現状の把握）：どんな危険が潜んでいるか？

第2 R（本質の追求）：これが危険のポイントだ！

第3 R（対策の樹立）：あなたならどうする？

第4 R（目標の設定）：わたしたちはこうする！

ヒヤリハット活動

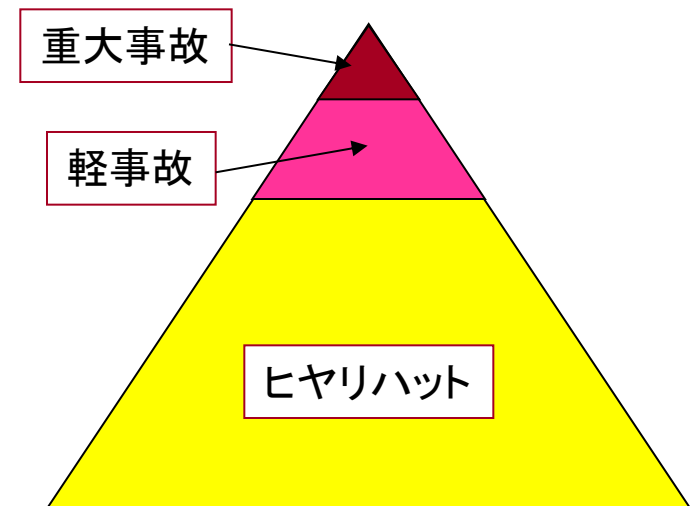
ヒヤリハット (HH)

事故には至らなかったものの、ヒヤリとかハッとした事象を、積極的に表ざたにすることによって共有し、大事に至る前に対策を行うことにより、事故を防止する

- 報告者を責めない (HH事例の隠蔽を防止)
- 早期に報告、早期に対策
- 情報の共有化や有効活用の推進

ハインリッヒの法則

1件の重大事故が起こるとき、
同じ原因による軽事故が29件、
HH事例が300件起こるとい
う経験則



5S活動

5S活動

- **整理** : 必要なものと不要なものを区別し、不要なものを処分すること
- **整頓** : 必要なものを使いやすく置き、わかりやすく明示すること
- **清掃** : 常に掃除し、きれいにすること
- **清潔** : 整理・整頓・清掃の3Sを維持すること
- **しつけ** : 決められたことをいつも正しく守る習慣づけのこと

5S活動は、安全衛生活動の基本であると共に、仕事の効率改善や維持管理を行うための基本として重要なポイント

- 職場の書類の整理整頓により、必要な書類を誰でもすぐに取り出せる
- 装置の清掃清潔により、装置の異常にすぐに気付くことができる
- 危険な状態が放置されることによる事故などを防ぐことができる
- 職場の規律が高いレベルで維持されることによる波及効果が期待できる

その他の安全衛生活動

安全パトロール

定期的に職場内を責任者が査察し、安全衛生や環境上の問題点および5S状況などをチェックする

安全性評価（セーフティアセスメント）

新たな設備の導入や新たな作業を開始する前に、安全衛生面や環境面での問題点の有無を検討する

小集団活動

QC（品質管理）活動や改善提案活動など、職場単位などの少人数の集団による、品質、作業効率、安全衛生、環境などの改善のための活動

健康管理

社員やその家族の心身の健康の維持・向上を会社が管理
健康診断、カウンセリング、運動など